

有識者議員懇談会 資料

SDGsのための科学技術イノベーション (STI for SDGs)

平成30年4月26日(木)

内閣府 政策統括官（科学技術・イノベーション担当）付

SDGs (持続可能な開発目標)

2015年9月の国連サミットで全会一致で採択。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする**17の国際目標**（その下に、169のターゲット、232の指標が決められている）。特徴は、以下の5つ。



普遍性 先進国を含め、**全ての国が行動**

包摂性 人間の安全保障の理念を反映し「**誰一人取り残さない**」

参画型 **全てのステークホルダーが役割を**

統合性 社会・経済・環境に**統合的に取り組む**

透明性 **定期的にフォローアップ**

前身：ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs)

- 2001年に国連で専門家間の議論を経て策定。2000年に採択された「国連ミレニアム宣言」と、1990年代の主要な国際会議で採択された国際開発目標を統合したもの。
 - 発展途上国向けの開発目標として、2015年を期限とする8つの目標を設定。
(①貧困・飢餓, ②初等教育, ③女性, ④乳幼児, ⑤妊産婦, ⑥疾病, ⑦環境, ⑧連帯)
- ✓ MDGsは一定の成果を達成。一方で、未達成の課題も残された。
- 極度の貧困半減 (目標①) やHIV・マラリア対策 (同⑥) 等を達成。
 - × 乳幼児や妊産婦の死亡率削減 (同④, ⑤) は未達成。サブサハラアフリカ等で達成に遅れ。

環境
(リオ+20)

人権

平和

2. STI for SDGs

2015年、国連は科学技術によるSDGs支援のために「**技術促進メカニズム**」
(TFM : Technology Facilitation Mechanism) を導入、以下3点を実施。

1. IATT (UN Inter-Agency Task Team on STI) の設置

STIに関連する国連の各機関を調整するタスクチーム

2. オンライン・プラットフォームの設置

STIプログラムの情報や優良事例等への情報へのアクセスを促進 (検討中)

3. 「STIフォーラム」の実施

年1回、国連経済社会理事長が様々なステークホルダーを招集し、SDGsへのSTIの貢献について議論をする場

┆ 第1回 2016年6月: STIのSDGsに対する貢献について議論

┆ 第2回 2017年5月: (STI for SDGs)ロードマップによる進捗管理の必要性の高まり

『SDGsアクションプラン2018』の概要 (SDGs推進本部第4回会合において決定)

- 日本は、SDGsの推進を通じて、創業や雇用の創出を実現し、**少子高齢化やグローバル化の中で実現できる「豊かで活力ある未来像」を、世界に先駆けて示していく。**そのため、**日本ならではの「SDGsモデル」を構築。**

日本の「SDGsモデル」を特色付ける大きな柱として、次の三つを掲げた。

SDGsと連動する「Society 5.0」の推進

- SDGsが掲げる社会課題に対応すべく「Society 5.0」や、「生産性革命」を実現。
- 経団連「企業行動憲章」の改定を支持・後押し。

- ・民間企業への支援策等を年央までに検討。
- ・ベンチャー企業支援を含む「SDGs経営推進イニシアティブ」
- ・SDGsのための科学技術イノベーションの推進 等

SDGsを原動力とした地方創生、強靱で環境に優しい魅力的なまちづくり

- 各地方のニーズや強みを活かしながらSDGsを推進。
- 政府が一体となって、先進的モデルとなる自治体を支援しつつ、成功事例を普及展開。

- ・「自治体SDGsモデル事業」を新規創設し、政府一体となった支援体制を構築。
- ・東京オリンピック・パラリンピック開催準備や万博誘致を通じて、SDGsの認知度向上と実施を推進。

SDGsの担い手として次世代・女性のエンパワーメント

- 国内では、「働き方改革」、「女性の活躍推進」、「人づくり革命」などを着実に実施。
- 国際協力では、「人間の安全保障」に基づき、「保健」、「女性」、「教育」、「防災等への支援」を推進。

- ・SDGsを主導する次世代の育成を強化。
- ・「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC)」の推進に向けて、今後約29億ドルを支援。

4. CSTIとSDGs これまでの経緯

2017年12月26日

SDGs推進会合にて総理より指示

STI for SDGsのための国際ロードマップ策定
官民を挙げたSociety5.0の推進

2017年12月25日

CSTIにて総理より指示

統合イノベーション戦略の策定

内閣府「STI for SDGsタスクフォース」の設置（2018年1月）

当面の目標

SDGsに貢献するSTIロードマップの策定

日本の「Society 5.0」モデルの構築と国際発信 = プラットフォームの構築

上記も反映した「統合イノベーション戦略」（SDGs関連部分）の策定

開催履歴 / 主な議題

第1回（1月17日） / 経団連「企業行動憲章」、日本工学アカデミー「国際ルール形成」、
Japan Innovation Network (JIN) 「SDGsプラットフォーム」

第2回（2月7日） / 関係本部・府省庁の取組整理

参考 内閣府「STI for SDGsタスクフォース」

総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）

議長：内閣総理大臣 構成員：関係閣僚 + 有識者議員

イノベーション戦略調整会議（CSTI内の組織として設置）

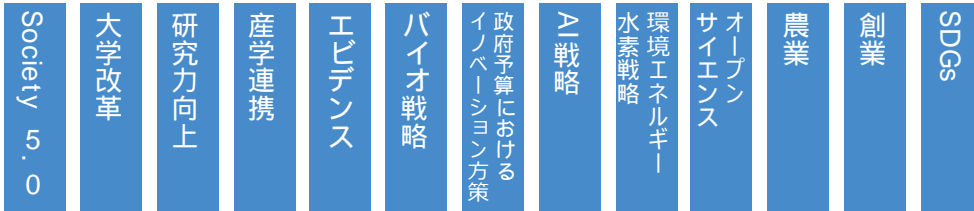
【構成員】

議長：内閣官房長官	文部科学大臣
副議長：科学技術政策担当大臣	厚生労働大臣
兼 IT、知財、宇宙担当	農林水産大臣
構成員：経済再生、健康・医療	経済産業大臣
兼 経済財政政策担当大臣	国土交通大臣
規制改革担当大臣	環境大臣
海洋政策担当大臣	防衛大臣
総務大臣	
外務大臣	
財務大臣	

科学技術・イノベーション政策強化推進チーム

チーム長：和泉総理大臣補佐官
 構成員：司令塔会議事務局・各省の局長・審議官級
 主要テーマ毎にタスクフォースを設置し、政策強化推進を実施

< 全13の主要テーマ別タスクフォース >



SDGsタスクフォース会合（第2回）（平成30年2月6日） 出席者一覧

和泉 洋人	内閣総理大臣補佐官
原山 優子	総合科学技術・イノベーション会議 議員
山脇 良雄	内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当）
赤石 浩一	内閣官房内閣審議官（兼）内閣府大臣官房審議官（科学技術・イノベーション担当）
進藤 秀夫	内閣府大臣官房審議官（科学技術・イノベーション担当）

【タスクフォースメンバー】

室谷 展寛	内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当）付参事官（総括担当）
太田志津子	内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当）付参事官（エネルギー・環境担当）
板倉 輝幸	内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当）付企画官（社会システム基盤担当）
田村 政美	内閣官房副官補付 内閣参事官
佐野野一郎	内閣官房日本経済再生総合事務局 内閣参事官
奥田 直彦	内閣官房 IT 総合戦略室 内閣参事官
堀内 直哉	内閣官房健康・医療戦略室 企画官
遠藤健太郎	内閣府地方創生推進事務局 参事官
小野寺 修	内閣府知的財産戦略推進事務局 参事官（総括担当）
須藤 憲司	内閣府宇宙開発戦略推進事務局 参事官
堀田 継匡	内閣府総合海洋政策推進事務局 参事官
池田 賢志	金融庁総務企画局総務課国際室長
布施田英生	総務省国際戦略局技術政策課課長
中溝 和孝	総務省国際戦略局通信規格課長
大高準一郎	外務省総合外交政策局軍縮不拡散・科学部国際科学協力室長
栗原 潔	文部科学省科学技術・学術政策局科学技術・学術戦略官（国際担当）付室長補佐
藤吉 尚之	文部科学省研究開発局環境・エネルギー課長
浅沼 一成	厚生労働省大臣官房厚生科学課長
原 孝文	農林水産省農林水産技術会議事務局研究企画課長
鴨志田尚昭	農林水産省農林水産技術会議事務局国際研究官
伊藤 隆庸	経済産業省産業技術環境局国際室長
安田 泰二	国土交通省大臣官房技術調査課建設技術政策分析官
行木 美弥	環境省大臣官房総合政策課環境研究技術室長

【関係機関】

中村 道治	国立研究開発法人 科学技術振興機構顧問
倉持 隆雄	国立研究開発法人 科学技術振興機構 CRDS センター長代理・上席フェロー（経営企画）
有本 建男	国立研究開発法人 科学技術振興機構 CRDS 上席フェロー
大竹 暁	国立研究開発法人 科学技術振興機構 上席フェロー（国際）
矢島 秀浩	国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 技術戦略研究センター次長
久保倉 健	独立行政法人 国際協力機構 企画部国際援助協調企画室企画役
武田 晴夫	公益社団法人 日本工学会 アカデミー SDGs プロジェクトリーダー
小原 愛	一般社団法人 ジャパンイノベーションネットワーク シニアマネージャー
安藤 慶明	国立大学法人 東京大学 総長特任補佐・政策ビジョン研究センター特任教授
宮崎 成人	世界銀行 駐日特別代表

5. 内閣府「STI for SDGs」タスクフォースにおける検討

目指すべき「日本の姿」

- n Society 5.0実現のため、科学技術イノベーション(STI)を駆使し「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現する
- n SDGsの達成に向けて、我が国が策定する「STI for SDGs」ロードマップを、世界の国々と共有する
- n 日本の「STI for SDGs」を世界の国々に展開し、世界のSDGsの達成に向けて、諸外国と共に取組む

取組の方向性

- n STIを活用してSDGsの17目標を2030年までに、一つの通過点として達成し、その後も世界のモデルとなるよう更なる高みを目指し強力に推進する
- n 日本の技術シーズと国内外のニーズとを結びつけるプラットフォームについて方針をまとめ、日本のSTIを活用して国際社会のSDGs達成に貢献。2030年以降も持続性ある国際社会の構築を牽引

6. 当面の目標 1 : SDGsに貢献するSTIロードマップの策定

世界トップレベルのSDGs達成国を目指し、着実に取組を進めるため、「STI for SDGsロードマップ」を策定すべく検討を行う。

STI for SDGs ロードマップ

我が国の、科学技術イノベーションを活用したSDGs達成（STI for SDGs）の道筋を示し、進捗を管理するためのもの。具体的には、

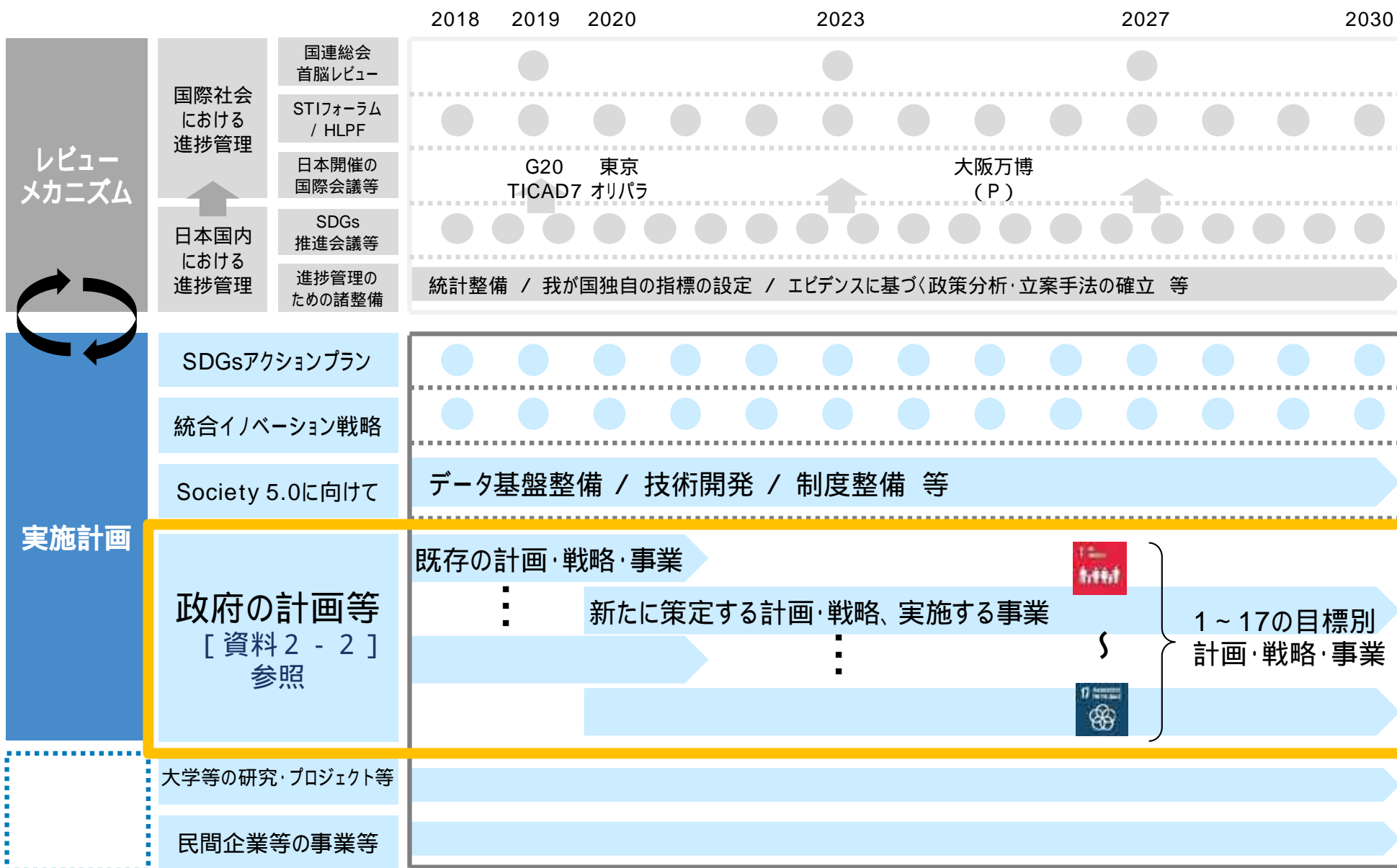
- n 実施計画（毎年策定される「SDGsアクションプラン」、「統合イノベーション戦略」及び「政府計画・戦略（関連事業含む）」を、SDGs目標別に一体化したもの） [\[資料2 - 2\] 参照](#)
- n 諸事業の進展を確かなものとするため、日本及び世界のSDGs（進展状況の）レビューメカニズムを構築（特に、国内取組については、取組状況（予算等）を緻密に把握する仕組みを構築し、要すれば、事業取組の加速等を行う）

について明記する。

ロードマップ策定ガイドライン

開発途上国等が各々のSDGsを達成するための「ロードマップ」作りを支援するためのガイドラインを提供し、途上国の取組を支援。

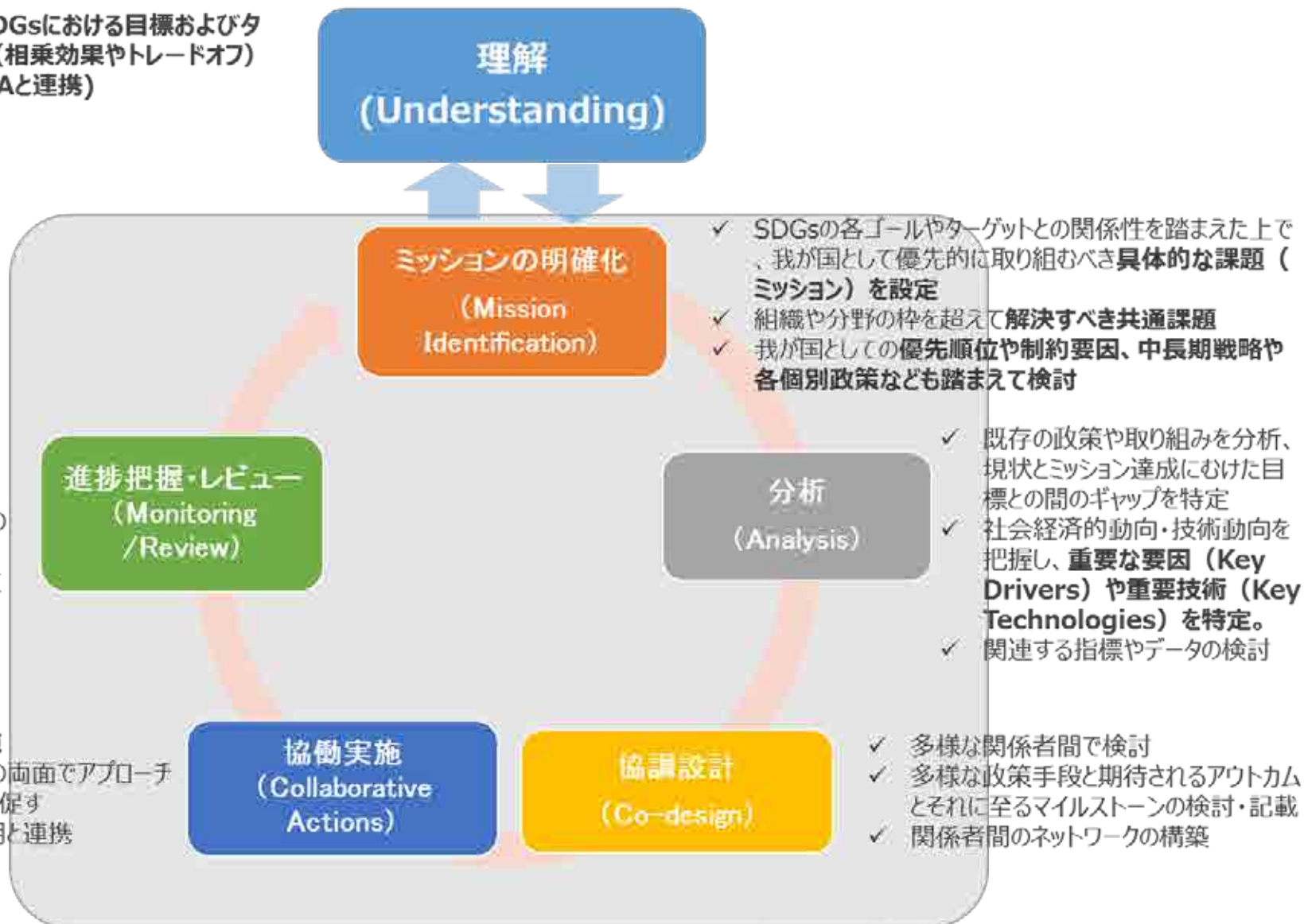
7. STI for SDGs ロードマップのイメージ



- ✓ 科学的な分析により、SDGsにおける目標およびターゲット間の相互関係（相乗効果やトレードオフ）を理解（ICSU/INGSAと連携）
- ✓ 各段階へのフィードバック
- ✓ ロードマップの改善と実施

- ✓ 設定された指標等による進捗管理
- ✓ 指標の信頼性・透明性の確保
- ✓ 結果を踏まえた指標の改善や新指標の検討

- ✓ ロードマップをもとに実施
- ✓ トップダウンとボトムアップの両面でアプローチ
- ✓ 新たな活動や取り組みも促す
- ✓ 関係者ネットワークの活用と連携



8. 当面の目標 2 : プラットフォーム

n 我が国として、無秩序な資金支援や事業ではなく、質が高く持続可能な、両国が Win-Winの貢献をすべきと考える。我が国が、如何なるSDGs関連技術を以て各国のニーズに対応し得るかについて、シーズのラインアップを整理する。

[資料2 - 3] 参照

n 我が国と国際社会全体が、STIを通じたSDGsの諸目標を達成するため、

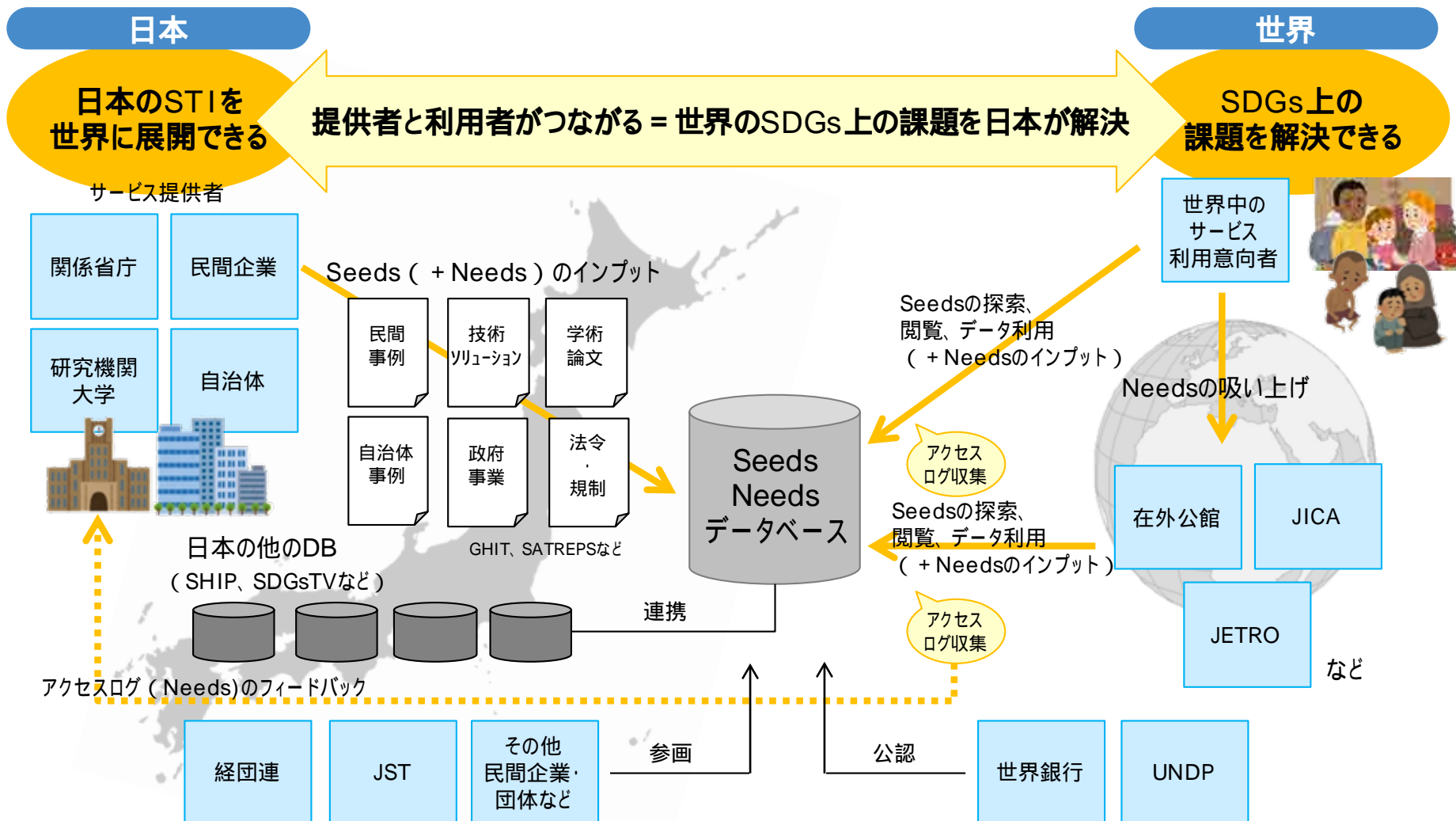
- l SDGs達成上の諸課題（ニーズ）を視覚化し、
- l 他国ニーズと我が国のSDGs関連の取組・成果（技術シーズ = 事例や技術・ソリューション、学術論文など）をマッチングさせる

ことが可能な「STI for SDGsプラットフォーム」の構築を目指す

n 2018年度については、「STI for SDGsプラットフォーム」構築に向けた第一段階として、外務省が主導する「JAPAN SDGs Action Platform」の完成をめざし、プラットフォームへの発展シナリオを描く。

9. プラットフォームのイメージ

n 各国のニーズと我が国のシーズとをマッチングさせるような、オンライン / オフラインを組合わせた仕組みを想定。



10. 直近のスケジュール

2018年6月に第3回国連STIフォーラムにて、SDGs達成に資するSTIロードマップの在り方について検討が行われる。それに向けて、専門家を介した国際ワークショップが5月に東京で開催され、ロードマップ策定に向けて以下の論点を含め議論する予定。

1. SDGs向けロードマップの基盤となる現行STI政策・制度枠組みについて
2. 進展著しい先進技術の社会的影響と適応策について
3. STI for SDGsの在り方、SDGs戦略とSTI戦略の統合と国際パートナーシップについて

我が国としての発表要旨は [資料2 - 4] を参照

2018年	4月予定	JST中村顧問「10人委員会」に任命	
	5月8日～9日	STIロードマップ策定に向けた 国際ワークショップ@東京	日本の取組状況（STI for SDGsの構想等） の説明とロードマップ暫定案提示
	6月5日～6日	国連 STI Forum 2018 （星野国連大使がメキシコと共同議長） （「10人委員会」がモデレータ）	ロードマップとプラットフォームの方向性を提示
	6月中	「統合イノベーション戦略」決定	国を挙げたSTIによるSDGsの達成をコミット
	7月中	国連ハイレベル政治フォーラム	
	9月中	国連総会	
2019年	6月～（P）	国連ハイレベル政治フォーラム（首脳級レビュー会議） / G20首脳会合 / TICAD7	ロードマップの策定と提示

「10人委員会」（市民社会、民間セクター、科学界から構成され、事務総長により任命される。任期は2年）は、I A T Tに対し、STIフォーラムの準備、STIフォーラムのサマリー作成、ハイレベル政治フォーラムへのブリーフィング等において、見解、指導、助言を与える。